

さいたま市立病院 内視鏡室

高度な内視鏡診療を支え、
患者さまとスタッフの
安全を守る感染対策

さいたま市立病院は、118万人のさいたま市民の医療、健康増進を担う中核病院であり、二次救急告示病院として急性期疾患に対応しています。同院の内視鏡室でも、消化管出血に対する緊急内視鏡の施行件数が月間平均で約15例に上るなど、緊急・高度医療サービスを地域に提供しています。特に膵石症の治療に関しては国内最多の症例数を誇り、中でも消化器内科部長の辻忠男先生が開発した、内視鏡的膵管バルーン拡張術とESWLを併用した膵石症の治療は高い評価を得ています。そのため、県内の医療施設だけでなく東京都内の大学病院からも患者さまの紹介があるそうです。新しい治療法の導入も積極的に行っており、消化器内科の桂英之先生は昨年からESDの施行も開始されました。施行成績は良好で、近隣施設からの紹介も増えているそうです。

内視鏡室では感染対策に関しても高い意識で取り組んでおり、消化器内視鏡技師会ガイドラインの遵守やスコープの症例間消毒はもちろんのこと、生検鉗子のディスポ化にもいち早く取り組みました。

「内視鏡処置の質を高く保つために確実な感染対策は不可欠」とおっしゃる桂先生は、「処置具のディスポ化は患者さまとスタッフの安全を守るとともに、再滅菌が不要になるため業務の効率化が図れる」というメリットを挙げられました。さらに、内視鏡室のスタッフには高い専門性が要求されるため、専任者の固定配置を管理部門に強く訴えるなど、人材のレベルアップにも取り組んでおられます。



埼玉県さいたま市緑区三室2460
院長：遠藤昌夫
病床数：567床
年間内視鏡検査件数：上部 3,423件
下部 1,416件 ERCP 400件(平成17年度)
スタッフ：医師5名、看護師8名(放射線科含む)



【左】消化器内科 大森 鉄平先生
【右】消化器内科 部長 辻 忠男先生



内視鏡室の皆さん(後列左が桂 英之先生)